



日本成人病（生活習慣病）学会
The Japan Society of Adult Diseases

Vol.11 (1) 2012 July

成人病（生活習慣病）*News Letter*

第 47 回日本成人病(生活習慣病)学会 開催に向けて

第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会
会 長 富野康日己
(順天堂大学大学院医学研究科腎臓内科学)



第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会学術集会を、平成 25 年 1 月 12 日（土）・13 日（日）の両日、都市センターホテルに於いて開催させていただくことになりました。大変光栄に存じております。今回は、「生活習慣病の病態と治療 ―食と健康―」をメインテーマといたしました。我々日本人の食生活は、明治時代以降大きな変遷を経てきました。このような急速な食生活の変化は、まさに生活習慣病の背景そのものです。今回、我々は生活習慣病を医師のみならず、栄養学などの医療に携わる広い分野から検討するプログラムを企画することで、我が国の生活習慣病学の更なる発展に資する学会をめざしております。

全国から広く演題を募集する一般演題では、セッションごとに優秀演題を選出し表彰いたします。また特別講演、招請講演、シンポジウム、教育セミナー、Meet the Expert など多数のプログラムを予定しております。会長招請講演では、三國清三氏（シェフ、オテル・ドゥ・ミクニ）より、食育についてのレクチャー、特別講演では、アジアにおける腎臓病学のオピニオン・リーダーである台湾高雄医科大学の Chen HC 教授をお招きし、英語によるレクチャーを日本語と英語

の同時スライドのもとに拝聴する予定です。

シンポジウムでは、食事や栄養管理の重要性について、医史学、内科学、外科学など多面的な検討をしたり、臨床で遭遇する様々な「浮腫」の病態・治療について学びます。教育セミナーでは、医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師、MR など様々な立場の方々の知識のアップデートを図る目的で、代表的な生活習慣病の診断と治療を各分野のスペシャリストからご講義いただく企画を考えています。

一般演題の募集要項やプログラムのアナウンスは、学会ホームページのほかにも第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会学術集会ホームページ <http://www.mtoyoy.jp/jsad47/> にて適時アップデートいたしますので、こちらもご参考にしていただければ幸いです。

最後に、本学術集会への多くの皆様のご参加をお待ちするとともに、「生活習慣病」の理解が一層深まり、より質の高い医療が患者さんに還元されることを祈っております。

平成 24 年度認定管理指導医申請のご案内

平成 24 年度認定管理指導医の申請受付が開始されています。本年度の締切りは平成 24 年 10 月 1 日（月）です。締切り後は次年度の申請になりますので、申請手続きは早目をお願いいたします。

◆申請書送付および問い合わせ先：

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 (株) 文栄社 内
日本成人病（生活習慣病）学会 認定管理指導医資格制度委員会
TEL : 03-3814-8541 FAX : 03-3816-0415

今号の主な内容

- ◇ 第 47 回学会会長挨拶「第 47 回学会開催に向けて」
- ◇ 第 47 回学会開催のご案内
- ◇ 第 46 回学会を終えて
- ◇ 第 46 回学会一般演題会長賞受賞者発表
- ◇ 特別寄稿文
- ◇ 会長賞受賞者寄稿文
- ◇ 理事会・評議員会・総会報告
- ◇ 第 3 回教育集会開催案内
- ◇ 入会のおすすめ、その他編集後記

第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会開催のご案内

第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会学術集会は、メインテーマを“生活習慣病の病態と治療 一食と健康”とし、下記の企画を予定しております。基礎から臨床まで様々な分野にわたる、幅広い一般演題を募集いたします。医師のみならず様々な職種の皆様のご参加をよろしくお願い申し上げます。

会期：2013（平成 25）年 1 月 12 日（土）～13 日（日）
場所：都市センターホテル
〒102-0093
東京都千代田区平河町 2-4-1
TEL: 03（3265）8211 FAX: 03（3262）1705
<http://www.toshicenter.co.jp/>

会長：富野 康日己（順天堂大学大学院医学研究科腎臓内科学）
会場費：医師・研究者および医薬・器械業者の方 8,000 円
comedical・スタッフ 4,000 円

プログラム概要（敬称略）

特別講演：Hung Chun Chen（台湾高雄医科大学教授）

理事長講演：岩本安彦（日本成人病（生活習慣病）学会理事長）

会長講演：富野康日己（順天堂大学大学院医学研究科腎臓内科学）

シンポジウム 1：「浮腫の病態と治療」

シンポジウム 2：「職域における生活習慣病の栄養管理」

教育セミナー：「生活習慣病の診断と治療」

Meet the Expert I：NST の役割

Meet the Expert II：冠動脈バイパス術

Meet the Expert III：ヘリコバクター・ピロリ感染と胃がん

Meet the Expert IV：バイオリズムと生活習慣病

プレナリーレクチャー 1：再生医療

プレナリーレクチャー 2：脳卒中、血管内治療

ランチョンセミナー（4 題予定）

一般演題

* 日本医師会生涯教育講座および認定産業医更新研修などの認定申請を予定しています（シンポジウム 2）。

* 演題登録は、例年通りオンライン登録を予定しています。

演題募集期間は、**2012 年 7 月 17 日（火）～9 月 25 日（火）**の予定です。

第 46 回日本成人病（生活習慣病）学会を終えて

第 46 回日本成人病（生活習慣病）学会 会長
東海大学医学部附属八王子病院 院長 北川 泰久

第 46 回日本成人病（生活習慣病）学会は 2012 年 1 月 14 日（土）、15 日（日）の 2 日間にわたり開催され、医師、コメディカル併せて 450 名の参加者を得て、盛大に終わることができ、関係の皆様には厚く御礼申し上げます。今回のメインテーマは私の専門である脳を中心に、“生活習慣病から脳を守る”としました。三大成人病の 1 つである、脳卒中は生活習慣の影響を大きくうけ、最近増加しているアルツハイマー型認知症も生活習慣が大きく関与するとされています。

この内容については会長講演でお話させていただきました。



理事長講演

今回の学会は本学会の理事長を務められた跡見裕先生から岩本安彦にバトンタッチしてから初めての学会で、新理事長からこれまで成し遂げた成果に加え、新たに動き出した教育集会や認定管理指導医制度などの学会活動と今後の具体的な方向性についてお話いただきました。特別講演として生活習慣病と関係が深く、近年増加している頸動脈病変診療について、長崎大学脳神経外科の永田 泉先生にリスク管理と内科治療および血管



内・外科治療の最新の知見をお話いただきました。シンポジウム 1 は最近高齢者で急増している心原性脳塞栓症を取り上げ、脳と心の立場からその診断と治療の新しい展開について討論していただき、新たな抗凝固薬の使い方と注意点、予防戦略について明日からの臨床に直結する指針を示していただきました。

シンポジウム 2 は本学会の企画委員会の重要なテーマである運動療法を取り上げ、職域における生活習慣病予防・改善と運動療法と題し、疫学、臨床試験のあり方、遺伝的な側面からの検証等について議論していただき、運動療法の意義と今後の運動療法の臨床試験をどのように行っていくかについての方向性を示していただきました。

特別企画として、東日本大震災の生活習慣病に対するインパクトについて、震災後 10 ヶ月の経験をもとに岩手医大の寺山靖夫先生に講演していただきました。過去の三陸沖地震の疫学的検証、震災が高血圧をはじめとする生活習慣病にどのように影響をおよぼしたのか、今後の予測等について示唆に富む講演をしていただきました。Meet the Expert では菊尾七臣先生に睡眠と生活習慣病、杉原健一先生に高齢者に対する大腸癌治療について講演いただきました。プレナリーレクチャーでは福田恵一先生に iPS 細胞を用いた心臓の再生と心臓病の病態解明、若林剛先生に肝臓の先進的治療について最新の情報を提供していただきました。教育講演では浦島充佳先生に放射線被曝と健康障害、津金昌一郎先生に食習慣と癌のついてわかりやすく講演をしていただきました。ランチョンセミナーでは冠動脈疾患の二次予防、脳卒中に対する抗血栓薬、糖尿病薬に使い方、大腸癌の最新治療について、それぞれの専門の先生にご講演いただきました。一般演題は 56 題からなり、座長の先生に推薦していただいた演題を会長賞としてホームページとニュースレターに発表致します。

今年度の市民講座のテーマは生活習慣から予防する認知症です。浦上克哉先生から認知症の正しい理解と効果的な予防を講演いただき、新田誠先生から高齢者の生活と財産管理を守るための成年後見制度について講演いただき、会場の聴衆者全員が先生方のわかりやすく、熱い、ユーモアを交えた講義に魅了され、満足度の高い市民講座でした。

本学会の内容が幅広い職種すべての会員の皆様にとって、明日からの診療、研究に役立つものであることと確信し、盛会に導いていただいた関係の皆様にご改めて感謝申し上げます。



第 46 回事務長 第 46 回会長 跡見名誉理事長

第46回日本成人病（生活習慣病）学会 一般演題【会長賞】

第46回日本成人病（生活習慣病）学会は1月14(土)、15(日)に開催されました。

今回も一般演題の各セッションより一題を優秀演題として座長の先生に選定いただき、以下の11演題が会長賞として選定されました。皆様のご協力により活発で有意義な討論ができ、盛会のうちに終えることができましたことを心より感謝いたします。

第46回日本成人病（生活習慣病）学会 事務局 徳岡健太郎

会長賞受賞者

セッション名	演題名	演者／所属
代謝・内分泌 1	1 型糖尿病腎症患者における尿中免疫グロブリン定量の確立とその意義	合田 朋仁 順天堂大学大学院医学研究科腎臓内科学
代謝・内分泌 2	メトホルミンによる癌の予防効果:メタアナリシスによる検証	能登 洋 国立国際医療研究センター病院糖尿病・代謝症候群診療部
代謝・内分泌 3	内臓脂肪 / 皮下脂肪面積比の経年変化および生活習慣病関連因子との関係の検討	福井 敏樹 NTT 西日本高松診療所 予防センタ
消化器	大腸がん健診受診率向上のための「特定健診を利用した大腸がん健診受診個別化」の試み	明石 隆吉 熊本市医師会ヘルスケアセンター
脳神経	脳梗塞患者における腕頭動脈プラークと動脈硬化因子の検討	徳岡健太郎 東海大学医学部付属八王子病院神経内科
腎臓	保存期腎不全患者における心臓超音波検査を用いた左室肥大に関する危険因子の検討	野原 奈緒 順天堂大学 腎臓内科
循環器 1	青壮年者における動脈硬化の検討ー動脈硬化危険因子が与える影響ー	鈴木 淳 東邦大学医療センター佐倉病院臨床生理機能学
循環器 2	肺静脈隔離術を施行した心房細動患者における冠動脈疾患有病率に関する検討	平谷 大吾 筑波大学人間総合科学研究科循環器内科
健診・ドック 1	正常耐糖能者における 5 年後の耐糖能悪化リスクの予測; 75g 糖負荷試験による検討	加藤 活人 日本医科大学大学院医学研究科環境医学分野
健診・ドック 2	健康診断における脂肪肝予測インデックス	根上 昌子 東海大学医学部基盤診療学系健康管理学／八王子病院健康管理センター
動脈硬化・その他	2 型糖尿病における血中遊離脂肪酸とインスリン分泌能低下との関連性長期研究より	森田 修平 和歌山県立医科大学医学部臨床検査医学



講演会場

特別寄稿文

開業医の出番です

つくば市 坂根 M クリニック
坂根みち子

今

回の診療報酬の改定で大病院の同日多科受診料が、2 科目も半額算定できるようになりようやく半歩前進した。

生活習慣病は、大病院では多科受診になりやすい。

血圧→循環器内科、脂質、糖尿病→糖尿病代謝内科 喫煙、SAS→呼吸器内科、慢性腎臓病→腎臓内科、狭心症、心筋梗塞→循環器内科、脳血管障害→脳外科、PAD、動脈瘤→循環器外科、といったところである。それぞれの疾患の専門家が診ていながら、同日受診だと 1 科目以降は受診料が算定できず無料サービスとなってしまうという摩訶不思議な制度だった。これが大病院の外来の混雑と勤務医疲労（しかも外来部門は赤字）の一因となっていることは確かである。

患者側からすると確かに時間はかかるが、専門医に診てもらえて安心でしかも安いのである。大病院志向になるはずだ。

開業医の強みは、かかりつけ医としてすべての科に対応できることである。

今まで何科にも掛かって、それぞれから何種類もの薬をもらい、どの科 Dr が全体のコーディネーターか責任の所在がはっきりしなくなっていたのを、まとめてすっきりさせてあげられる。勤務医だったころ（ほんの 1 年半前まで勤務医でした）、病院のほうに安いかから来るんだとはっきり言われたことが何度もあったが、これで多少話をつけやすくなる。

基本に戻って考えてみる。血管病が生活習慣病の終着駅である。そこに行きつかないために、血圧も脂質も糖も喫煙も肥満もまとめてコントロールしていかなければ意味はない。これをばらして多科で診ているのは、患者のためにならないし医療資源の無駄使いである。

大きな病院の勤務医の先生方は、コントロールのついた患者はどんどん開業医に振っていただきたい。それを患者さんに説得する時間とエネルギーが大変だとは思（かくいう私も何度この時点で挫折したか）が、診察料が上がるというのは、一つのきっかけになる。医療クレークが付

くところも増えてきたので、その先のコーディネートはコメディカルに依頼すればいい。ついでに言うと、やむを得ない場合以外は患者さんの希望で無理して多科の診察日を同じ日にまとめるのもおやめになったほうがいい。その利便性を優先させることはない。大病院の使命は他にある。

日本の開業医には専門性があるが、内科と標榜している限り生活習慣病の管理は開業医の仕事である。勉強してどんどん引き受けなくては行けない。手に余るときは診診連携や病診連携を利用すればいい。

生活習慣病は開業医の出番である。

ある程度の血管のダメージが予想される患者には、定期的な血管の評価が必要になる。

頸動脈エコーや心エコー/運動負荷検査、ABI がこれにあたる。自院で出来ないときは、やはり連携して検査する。つくばでは、外来受診せずに検査のみ予約できる病院がいくつかあるのでそこを利用する。患者と勤務医どちらにとってもそのほうがよい。更に進んで、重篤な合併症が疑われるときはいよいよ大病院の専門医の出番である。狭心症、心筋梗塞、脳梗塞、解離性大動脈瘤などは緊急になることが多いが、血管系の病気に携わるインターベンショナリストや外科医は、万難を排して引き受けて頂けることがほとんどである。

つまり生活習慣病とその先にある血管病ほど、診診連携、病診連携の取りやすいものはないのである。

日本人は民族的に糖尿病になりやすく、今の子供たちの食生活を見ると将来の血管病発症がとて早まる可能性が高いと思われる。私は糖尿病に関連して血管病を発症した人がいると、必ずその子、孫の食生活まで言及してみる。

一石二鳥どころか三鳥になるような仕事ができるのも開業医ならではの。

寄稿文

第 46 回日本成人病（生活習慣病）学会会長賞を受賞して

順天堂大学医学部 腎臓内科
合田 朋仁

平 平成 24 年 1 月 14 日（土）～15 日（日）に都市センターホテル（東京都千代田区）に於いて、「第 46 回日本成人病（生活習慣病）学会学術集会」が開催され、参加・発表する機会を与えられました。2 つの広い会場がほぼ満席になるほど盛況な学会で、質疑も活発に行われていました。

研究発表は、生活習慣病にかかわるテーマによって分かれており、糖尿病・脂質異常症・高血圧を中心に予防（健診・ドック）から治療に至るまで多岐にわたる分野から構成されていました。特別講演は、長崎大学医学部脳神経外科の永田泉先生による「頸動脈病変診療の最前線」でした。特別講演の他にも、理事長講演、会長講演、教育講演など、第一線で活躍されている先生方から貴重な講演を拝聴する以外にも、約 50 題の一般演題が発表されました。

私が特に興味をもって聴講したセッションは、「健診・ドック」でした。私自身もわずかではありますが、企業の保険組合の健康診断の結果を判定する機会があるのですが、単に現在の健康状態を評価するだけでなく、受診者の特徴を把握し、将来発症しうるかもしれない疾病を予防するた

めに、今何を指導すべきかということをもう 1 度考える良い機会でした。

私は数年前からこの学会に参加しておりますが、本学会の対象は医師のみならず、栄養管理や保健指導に関わる栄養士や保健師など多くのメディカルスタッフ（医療共同従事者）も参加されています。さらに医師に関しては、内科や外科に拘らず、種々の分野におけるスペシャリストが集まり、発表が行われ議論が交わされていることでも、類のない学会になっていると思います。本学会に参加すると、普段あまり接する機会のない分野で活躍されている先生方の発表や討論を拝聴できるので、自分の考えを改めて考え直すよい機会にもなっています。

最後に、本学会をお世話頂きました会長の北川泰久先生ならびに、会場の設営と運営頂きましたスタッフの方々に厚く御礼申し上げます。今回は、私たち順天堂大学大学院医学研究科腎臓内科学富野康日己が当番世話人となり、魅力的な会になるよう教職員一同で準備していますので、多くの方に参加して頂きたいと思います。例年通り都市センターホテル [平成 25 年 1 月 12 日（土）～13 日（日）] にて開催される予定ですので、何卒、宜しくお願いいたします。

第 46 回日本成人病（生活習慣病）学会会長賞を受賞して

熊本市医師会ヘルスケアセンター熊本地域医療センター・ヘルスケアセンター 所長
明石 隆吉

こ の度は、第 46 回日本成人病（生活習慣病）学会学術集会 一般演題優秀演題 会長賞に選考頂き誠に有り難うございました。職員一同感謝申し上げます。

私の専門は消化器内視鏡で、特に ERCP 関連の分野を中心に研鑽を重ねてきました。

ところで、ERCP 関連の偶発症で最も内視鏡医を悩ますのが後膵炎ですが、私は後膵炎に関するリサーチをすることがきっかけで、消化器内視鏡学会の ERCP 後膵炎対策委員会や厚生労働省難治性疾患克服研究事業難治性膵疾患に関する調査研究班を通して原田英雄先生、金子栄蔵先生、早川哲夫先生、小川道雄先生らに学問の大切さを教えて頂く機会を得ることが出来ました。

さらに、小川道雄先生が班長当時の厚生労働省の研究班で知己を得たのが、本学会の前理事長跡見裕先生でした。私が日本成人病（生活習慣病）学会に入会しましたのも跡見裕先生からの御紹介があってからです。

私は約 6 年前に現在の職場である熊本地域医療センター・ヘルスケアセンターに赴任しました。同センターは名前のとおり生活習慣病検診、がん検診、学童検診などを主な業務としています。当センターは医師会立の施設であり、検診事業は開業医・行政・基幹病院が一体となり協力して業務を施行する、いわゆる「熊本方式」で行っているために他の検診センターでは出せないデータを多数有しています。

ところが、赴任してまず感じた問題点は、検診データは豊富にあるものの、それらのデータが有する意味を、実際に検診に従事している職員が理解していなかったことです。そこで、職員には「データの持つ意味を考える習慣をつける」教育から始めました。

本学会は各種異業種の専門分野の先生方が集まり、生活習慣病について考えるという非常にユニークな学会であることから、発表内容も多岐にわたっています。したがって、他分野の先生方の考えを拝聴出来る機会が多く、出席する度に新しい考え方を触発されるために、非常に実りの多い会であると感じています。医学は永遠にゴールにたどりつくことのない「底がまるみえの底無し沼（井上義啓）」です。新しい知見に間違いがないのか、原点を見直しながら検証していくことで新たなスタートラインに立つべきであると考えています。一方、その検証には先見性のある柔軟な思考が必要であり、その意味からも、本学会は非常に重要な学会であると考えています。

今回の授賞は「熊本方式」として常日頃御尽力頂いています熊本市医師会諸先生の協力の賜であると感謝する次第です。また、職員も大きな自信を得ることが出来ました。諸先生方におかれましては今後とも宜しくお願い申し上げます。

稿を終えるにあたり、本学会の益々の発展を祈念致しますと共に、現在も医師としてのみならず社会人としてのあり方をご指導いただいております前理事長の跡見裕先生に深謝いたします。

第 46 回日本成人病（生活習慣病）学会会長賞を受賞して

筑波大学附属病院 循環器内科
平谷 太吾

この度、2012 年 1 月 15 日の第 46 回日本成人病学会で、優秀賞を受賞することが出来ました。演題は「肺静脈隔離術を施行した心房細動患者における冠動脈疾患有病率に関する検討」です。筑波大学は、青沼和隆教授を始め、不整脈治療の専門医を数多く擁しており、心房細動に対する肺静脈隔離術(PVI)の症例数は年間 200 例ほどに上ります。また PVI 施行前に、ほぼ全ての患者さまに冠動脈造影を行っていることも特徴の一つです。今回は、初回 PVI を施行した心房細動患者において、冠動脈疾患の有無およびその背景因子を検討しました。結果、初回 PVI 施行患者における冠動脈疾患の有病率は 15%と比較的高く、合併する冠危険因子が増加するほど、冠動脈疾患の有病率が高率となるという結果でした。その中でも糖尿病、高齢(65 歳以上)、高血圧の 3 つが冠動脈疾患罹患の独立規定因子となりました。

循環器内科としての経験もまだわずかな自分にとっては、集計作業や統計など、初めての体験が多く、戸惑いを感じながらやっていました。その中で、この度日本成人病学会で発表の機会があり、このような賞をいただいたことを大変嬉しく思っております。今回の受賞を励みに、今後さらに集計数を増やし、さらに濃い研究が出来ればと考えています。また日々の実臨床で患者さまと接する中で、自分の興味ある分野を探求し、新たな研究にも目を向けられればと思います。最後になりましたが、今回の研究を始めるきっかけを下さった五十嵐都先生、黒木健志先生、および集計作業から統計、発表に至るまでご指導いただきました佐藤明先生、星智也先生ほか、多くの先生方に感謝の意を述べまして、報告を終えさせていただきます。

第 46 回日本成人病（生活習慣病）学会会長賞を受賞して

NTT西日本高松診療所 予防医療センタ
福井 敏樹

昨年度の第 45 回学術集会の「職域における生活習慣病の診断と管理～ドック健診と医療機関の連携～」のテーマでのシンポジウムで「企業の社員健康管理における健診および事後指導と治療の連携」という内容で講演させて頂きました。その際に実際の日本成人病（生活習慣病）学会の活動を初めて体感することとなりました。

本年度の第 46 回学術集会は、東海大学神経内科教授で八王子病院院長である北川泰久先生が会長を務められ、「生活習慣病から脳を守る」のテーマの下で開催されました。私は昨年からの経緯で「内臓脂肪 / 皮下脂肪面積比の経年変化および生活習慣病関連因子との関係の検討」のタイトルで演題発表させて頂きました。

内臓脂肪型肥満の問題点については、基礎および臨床研究や疫学的研究が進み、様々な事実が明らかになってきています。しかしながらメタボリックシンドロームの診断基準が世界各国で少しずつ異なっているように、生活習慣病全体においてのどのような位置づけ、扱いが最も適当であるのかについてはまだまだ今後の検討が必要な状況ではないかと思われれます。そんななかで、現在最も正確に内臓脂肪型肥満を評価できると考えられるCTスキャンによる内臓脂肪面積測定の結果について、これまで我々の施設において測定を行った 1071 名の結果について、内臓

脂肪面積/皮下脂肪面積比 (V/S 比) の年代別変化を中心に報告させて頂きました。非常に明らかな結果で、男女ともに、歳をとるに従い次第に V/S 比が高くなることを改めて示すことができました。すなわち男女ともに加齢に伴い内臓脂肪が付きやすくなるということです。言い換えれば、若いうちは太ったとしても皮下脂肪に蓄積することができますが、加齢に伴ってその貯蔵能力が減少していくと言えるのかもしれません。我々は、加齢とも密接な関係にあるとも考えられている酸化ストレスと内臓脂肪面積との間に相関があることを報告しています (Hypertens Res 2011 Fukui T et al)。ご参照頂ければありがたいです。今回、日本成人病（生活習慣病）学会学術集会の演題発表の多くが全国の著名な大学や大規模医療施設からのものがほとんどであるなかで、座長の仕事も任せて頂き、このような表彰も受けさせて頂いたことに非常に感謝しています。会長を務められた北川先生をはじめとする関係者の方々に深謝申し上げると共に、我々の施設スタッフの今後の研鑽の励みにしたいと思っております。

最後になりますが、本学会の今後のさらなる発展を祈念するとともに、私自身今後も微力ながら関わっていければと思っています。今後ともご指導の程何卒よろしくお願い申し上げます。

第 46 回日本成人病（生活習慣病）学会会長賞を受賞して

国際医療研究センター病院 糖尿病・代謝症候群診療部

能登 洋

糖

糖尿病患者では癌リスクが高まることが世界的に注目されています。2010 年にアメリカ糖尿病学会とアメリカ癌学会は、両者の関連性に関するコンセンサスレポートを発行しました（表）。私達は糖尿病における癌の予防と管理方策を検討するために両者の疫学的関連性や糖尿病治療薬と癌の関連性についてメタアナリシスを行い本学会で発表し、光栄なことに 3 年連続会長賞（優秀演題）を頂くことができました。この欄で研究結果と意義についてご紹介します。

糖尿病と癌は、それぞれその発症と予後に生活習慣の影響を大きく受ける疾患です（図）。なかでも肥満・喫煙・運動不足・アルコール多飲などの生活習慣が両者の共通要因としてまず挙げられます。糖尿病では心血管疾患による死亡が増加しますが、癌死の多い日本では、糖尿病においても癌は死亡の主因です。世界的には癌は死因の第 2 位、糖尿病は死因の第 12 位です。一方、糖尿病で癌を合併すると血糖コントロールが悪化することも少なくありません。

まず、国内外の研究のメタアナリシスでは糖尿病患者の癌死亡率および癌発症率は非患者より各約 20% 有意に高いことが判明しました。また、人種別の比較ではアジア人（特に日本人）において糖尿病による癌死・発癌リスク増加度が高い傾向が示唆されました。

続いて、今回の学会では糖尿病治療薬であるメトホルミンと癌リスクについてのメタアナリシスを発表しました。その結果、メトホルミン服用糖尿病患者の癌全般のリスクは非服用患者と比較して有意に低いことが示唆されました（癌死リスク比 0.66, 発癌リスク比 0.67）。臓器別癌では、結腸直腸癌（リスク比 0.68）、肝臓癌（リスク比 0.20）、肺癌（リスク比 0.67）のリスクが有意に低値でした。

世界的に糖尿病患者が激増しており、糖尿病患者の癌の予後が不良であることや糖尿病治療薬と癌のリスクに焦点が当てられてきている趨勢を鑑みますと、糖尿病と癌全般の関連性の究明は社会的にも臨床的にも適確な方針決定をする上できわめて重要です。本学会で発表致しました私達の研究結果が糖尿病と癌だけでなく多分野共同研究の発展にもつながることを切望しております。

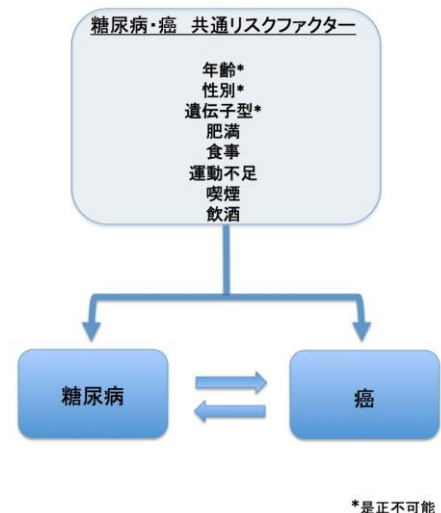


図 糖尿病と癌のリスクファクター

表 アメリカ糖尿病学会とアメリカ癌学会によるステートメント（抜粋）

- ・ 2型糖尿病では、多くの臓器別癌のリスクが増加するが、前立腺癌のリスクは有意に低い。また、糖尿病患者が癌を合併すると非糖尿病患者よりも予後不良である。
- ・ 両者の関連性には高インスリン血症・高血糖・肥満・炎症・糖尿病治療薬などさまざまな因子が複雑に関与している。
- ・ 両者の関連性に関する臨床研究・基礎研究が一層必要である。
- ・ 多くの糖尿病患者では、癌リスクに応じて糖尿病治療薬選択をするべきではない。
- ・ 糖尿病患者に対し適切な癌検診受診を勧めるべきである。

論文発表

J Diabetes Complications 24:345-53,2010

Endocr Pract 17:616-612,2011

J Diabetes Invest 3:24-33, 2012

PLoS ONE 7(3): e33411. doi:10.1371/journal.pone.0033411, 2012

第46回日本成人病（生活習慣病）学会会長賞を受賞して

東邦大学医療センター佐倉病院 臨床生理機能検査部
鈴木 淳

生 活習慣病やこれを起因としたさまざまな重症疾患に対する診断・治療の進歩とともに、これらの疾患の発症を未然に予防することの重要性が唱えられています。約半世紀も前に東大の上田英雄教授（第二内科）と石川浩一教授（第一外科）を代表としてこの学会が設立されましたことは、当時としては素晴らしい先見の明であったと思っております。今回、「生活習慣病から脳を守る」をメインテーマに第46回日本成人病（生活習慣病）学会が、2012年1月14日から15日の二日にわたり東京で開催されました。第一日目は講演やセミナーなどの他に、代謝・内分泌、消化器、脳神経、腎臓と幅広い分野における発表がありました。第二日目は循環器、健診・ドック、動脈硬化での発表があり、私も循環器1のセッションにおいて「青壮年者における動脈硬化の検討ー動脈硬化危険因子が与える影響ー」という演題で発表をさせていただきました。発表後の討論では各分野の専門的な立場からの貴重なご意見を頂くことができたことに感謝しています。頂いたご意見を真摯に検討し、今後の研究の参考にさせていただきたいと思っております。生活習慣病の予防や治療には、専門領域や職域を超えた連携が欠かせません。本学会では様々な分野の医師、臨床検査技師、栄養士などから発表が行われ、いずれのセッションにおいても活発な討論がなされていきました。多様な視点から発表や討論がなされることは本学会の大きな魅力であると感じました。また、私が日常的には触れることの少ない食事、運動、薬物療法などの最新の知見を得ることができたことは大変有意義

であったと思います。私の病院からもいくつかの演題発表をさせていただきましたが、多岐にわたる講演や研究報告を拝聴し、生活習慣病やそれに付随する疾患への知識や理解が深まりました。また、「職域における生活習慣病予防・改善と運動療法」のシンポジウムでは生活習慣を積極的に是正して疾患の予防に努めることの重要性を再認識いたしました。

現在、私は高血圧や糖尿病をはじめとした動脈硬化進展の危険因子と動脈硬化の関係や、動脈硬化と脳卒中の関係そして心疾患について研究を行っています。そのため、第一日目の北川泰久先生の会長講演「生活習慣病から脳を守る」や第二日目の永田泉先生の特別講演「頸動脈病変診療の最前線」は、日頃より動脈硬化の検査や研究に携わっている者として、とても興味深い内容でありました。また、寺山靖夫先生の「東日本大震災ー生活習慣病へのインパクトー」では、今後いつ起こることも知れない新たな災害に備え、災害発生時にいかにしてQOLを保つべきかを再考するきっかけとなりました。

本学会に参加して決意を新たに、今後ますます重要になると思われる生活習慣病の予防や治療の一助となるよう、研究に邁進してまいります。

謝辞：私事ではありますが、会長賞という名誉ある賞を賜りましたことを大変光栄に思います。ご指導いただきました臨床生理機能検査部東丸貴信教授はじめ部員の皆様に感謝いたします。



Coffee break

東京女子医科大学 中央検査部 臨床検査科
佐藤 麻子

ド クターズマガジン5月号の「ドクターの肖像」に名誉理事長である跡見先生が表紙から取り上げられています。タイトルは「フェアを第一に考えるリーダー 外科的発想から「真・善・美」を探究」です。先生の医師、人としてのお考えや、影響を受けた方々のことが詳しく語られています。多くの学会の長をなさってすべて円滑に運営していること、そのような権威のある地位につきながら、我々の立場まで下がって気さくにお話をしてくださる理由がわかったように思いました。この記事で、私たちにたくさんのメッセージを下さっています。是非、お読みになってください。私は、次回お会いしたらバイオリンについて伺いたいと思っています。



DOCTOR'S MAGAZINE No.151 May 2012
株式会社メディカル・プリンシプル社 発行

理事会・評議員会・総会報告

理 事 会（平成 24 年 1 月 13 日）・評議員会（平成 24 年 1 月 14 日）・総 会（平成 24 年 1 月 15 日）が開催された。

◎担当幹事より平成 23 年度学会運営状況・活動について報告がなされた。

◎担当幹事より平成 23 年度会計報告がなされ、監事より監査が適正であるとの報告がなされた。

◎担当幹事より平成 24 年度予算案の説明がなされた。

◎第 46 回会長より学術集会開催内容の報告と挨拶がなされた。

- ◆ テーマ：生活習慣病から脳を守る
- ◆ 市民公開講座テーマ：生活習慣から認知症を防ぐ

◎各委員会より活動報告がなされた。

◇ 広報委員会

ニュースレターを年 3 回発行。（紙媒体：2 回・Web：1 回）
本年度 Vol.11-No.1 は 6 月発行予定であり、1 月 14 日に編集会議を開き、内容の検討をする。

◇ ホームページ委員会

ニュースレターをホームページに掲載する。
成人病に関する Q&A を掲載する。（会員向け）
他学会との相互リンクを幅広くしていく。
各委員会の活動報告等のアナウンスしていく。

◇ 企画委員会

研究テーマ「生活習慣病患者における運動療法の有効性」を企画し、パイロットスタディとしてプログラムを作成し通常運動群と強化運動群で数例を実施中である。

◇ 資格制度委員会

第 2 回教育集会を昨年 9 月 3 日に開催した。
認定管理指導医制度を 1 月 17 日より施行。
ホームページ、ニュースレター等に規定を掲載する。
認定管理指導医の申請を 1 月 17 日より開始し、ホームページに「申請について」および「申請書」を掲載する。
本年度の申請の締切は 10 月 1 日とする。

◎ 再任理事・再任評議員の再任が理事会・評議員会・総会にて承認された。

◎新理事選出にあたり下記候補を推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

- ◆ 小田原雅人：東京医科大学内科学第三講座
- ◆ 木村 理：山形大学消化器・一般外科学
- ◆ 桑野 博行：群馬大学病態総合外科学
- ◆ 滝川 一：帝京大学内科学
- ◆ 代田 浩之：順天堂大科学循環器内科学

◎新監事選出にあたり下記候補を推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

- ◆ 岩本 俊彦：東京医科大学老年病科
- ◆ 杉原 健一：東京医科歯科大学腫瘍外科学分野

◎新幹事選出にあたり下記候補を推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

- ◆ 佐藤 麻子：東京女子医科大学

◎新評議員選出にあたり 15 名の下記候補を推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

◆新評議員：

- 宇都宮一典：東京慈恵会医科大学
- 小井戸薫雄：東京慈恵会医科大学
- 小谷英太郎：日本医科大学多摩永山病院
- 加藤 智弘：東京慈恵会医科大学
- 清水 芳男：順天堂大学医学部
- 鈴木 祐介：順天堂大学医学部
- 瀧澤 俊也：東海大学医学部
- 竹石 恭知：福島県立医科大学
- 中神 朋子：東京女子医科大学
- 中村 真一：東京女子医科大学
- 向井 幹夫：大阪府立成人病センター
- 松久 宗英：徳島大学
- 百村 伸一：自治医科大学附属さいたま医療センター
- 谷亀 光則：東海大学医学部
- 綿田 裕孝：順天堂大学医学部

（アイウエオ順）

◎次期会長・副会長選出にあたり下記候補を推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

- ◆ 第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会会長
富野康日己：順天堂大学 腎臓内科学講座 教授
- ◆ 同 副会長
田尻 久雄：東京慈恵会医科大学 消化器・肝臓内科 教授

日本成人病（生活習慣病）学会

第3回教育集会開催のご案内

本学会では教育、啓発活動の一環として教育集会を開催しております。つきましては、第3回を下記の通り開催致します。今回は「糖尿病 合併症の病態とその管理」と題し、講義をしていただきます。本年度も学会認定管理指導医取得の申請要件となりますので、ぜひご参加くださるようお願いしております。

1. 日 時：平成24年（2012年）9月8日（土） 14：00～18：00
2. 会 場：千代田放送会館
〒102-0093 東京都千代田区千代田1-1 TEL：03-3238-7401
3. 定 員：150名
4. 受 講 料：日本成人病（生活習慣病）学会 会員 3,000円 非会員 5,000円 コメディカル／研修医 1,000円
受講料は申し込みと同時に下記へお振込みください。（会員・非会員共）
お振込み確認後登録完了通知を送付いたします。
みずほ銀行 銀座中央支店 （普）1255411
口座名：第3回日本成人病生活習慣病学会教育集会 代表 熊谷一秀
（ダイ3カイニホンセイジンビョウセイカツシュウカンビョウガツカイキョウイクシュウカイ）
5. 募集要項：官製ハガキ、またはE-mailにて申込み事項を記載し、日本成人病(生活習慣病)学会事務局までお申し込みください。
6. 申込締切：定員になり次第、先着順で締め切ります。
7. 受 講 証：受講修了者には日本成人病(生活習慣病)学会より受講証を発行いたします。
8. テ ー マ：「糖尿病：合併症の病態とその管理」

プログラム

司 会：富野康日己（順天堂大学医学部腎臓内科教授）
淡田 修久（大阪府立成人病センター副院長）

- | | |
|------------|-------------------------------|
| 1. 成因・疫学 | 小田原雅人（東京医科大学内科学第三講座主任教授） |
| 2. 循環器障害 | 平野 勉（昭和大学病院糖尿病・代謝・内分泌内科教授） |
| 3. 神 経 障 害 | 渥美 義仁（東京都済生会中央病院糖尿病臨床研究センター長） |
| 4. 腎 症 | 守屋 達美（北里大学医学部内分泌代謝内科学准教授） |
| 5. 網 膜 症 | 北野 滋彦（東京女子医科大学糖尿病センター眼科教授） |

9. 申込み記載事項：E-mailの場合件名は“教育集会応募”
第3回日本成人病(生活習慣病)学会教育集会申込み
*氏名（ふりがな）
*会員番号・非会員
*勤務先・所属
*勤務先住所（郵便番号） 電話番号 FAX 番号 E-mail

10. 応募先／受講に関するお問い合わせ先：
〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1（株）文栄社 内
E-mail：jimukyoku@j-seijinbyou.gr.jp
TEL：03-3814-8541 FAX：03-3816-0415
日本成人病(生活習慣病)学会事務局
第3回教育集会 係

第3回日本成人病(生活習慣病)学会教育集会
担 当：熊谷 一秀
(昭和大学附属豊洲病院外科 教授)



編集後記

昨年の東日本大震災から1年が経ちました。現在も復興の真只中にある東北3県の方々のご心痛とご苦労は、終わっておらず、本当に心痛む思いでいっぱいですが、首都圏の方々の毎日の生活はある程度以前のような落ち着きを取り戻したように感じられます。東北以外に住まわれている方々は、東北3県、特に福島県の方々のいつ終わることも知れないご苦労に深く心を寄せ、同じ日本人として我々に何が出来るかを考えると共に、落ち着いた平凡な日々に感謝する心を持ちたいものです。人間という生物がその様な大惨事を経験せずとも平時における平凡な生活の大切さを常に実感できればいいのですが、浅はかな存在である我々人間はこの様な惨状を経験する事でしか、平凡な毎日がいかに大切であったのかを知ることが出来ないようです。

平凡な毎日という言葉で思い起こされる事ですが、戦争という理不尽な絶対的力の無意味さと、平凡な生活の中の日々の営みがいかに幸せなものであるかを描くことでは第一人者である新藤兼人監督が2012年4月に100歳の誕生日を迎えられ、その後2012年5月29日に逝去された事は皆さんもご存じの事だと思います。最後の作品となった「一枚のはがき」は、戦争末期に動員された中年兵がくじ引きで戦地を決定され、方や生き延びる・方や戦死するという戦争の理不尽さと、生き残った人間の遣る瀬無い無常の心と、それでも運命に抗って生きて行こうとする力強さを描ききった秀作であるとの事です。

その新藤監督の遺言ともいうべき言葉の中で、100歳まで生きてきた人間として生きる目的を問われたとき、「唯心を込めて映画を作り上げるためだけに、生々しく生き抜きたい」と話されておられた事が心に残ります。100歳にもならないとする超高齢の巨匠が発した言葉にも拘らず、何と凄まじい力、且つ清々しい心が感じられる言葉でしょうか。映画という分野であり、一見医療とはかけ離れているように見えますが、我々医療関係者も、大震災の翌年において、再度命の尊さ・そして平凡に生きていく事の大切さを知る者として、今一度我々の仕事の意味を強く問い直したいものです。

(青沼 和隆)

事務局からのお願い

移動や引越し等が多くなる季節です。

勤務先変更・住所変更・所属、役職等変更事項のある方は、必ず事務局へメール・FAX・葉書でご連絡下さい。

(電話での変更受け付けは出来ませんのでご注意下さい。)

入会のお勧め

本学会は成人病・生活習慣病を対象とした学術団体です。会員数は現在約1,200名で、医師以外にも保健、栄養、スポーツ、検診関係の方々が数多く参加し、それぞれの場で活躍しています。新たに認定管理指導医資格制度や企画委員会による介入試験などの活動が開始されました。本会の趣旨に賛同して頂ける方の多数の入会をお願いします。

なお、申し込み用紙は事務局に直接連絡して取り寄せるか、ホームページの申し込み用紙をダウンロードしてお使いください。

また、ホームページの「入会のご案内」より直接お申し込みも出来ますのでご利用ください。

※ホームページから入会のお申し込みをされる場合、年会費のご入金が確認出来た時点で入会となります。(会員番号と手続き完了のお知らせメールを送信致します。)

ご入金の確認が出来ない場合は入会にはなりませんので、ご注意下さい。

一般会員年会費：5,000円／評議員年会費：8,000円

入会金：なし

お問い合わせ・資料のご請求

日本成人病（生活習慣病）学会

事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1

(編集部) 株式会社 文栄社 内

TEL：03-3814-8541 FAX：03-3816-0415

E-mail：jimukyoku@j-seijinbyou.gr.jp

URL：http://www.j-seijinbyou.gr.jp

成人病（生活習慣病）ニュースレター

Vol.11 No.1 2012年7月1日発行

発行人：岩本 安彦

委員会顧問：増田 善昭・山口 巖

責任編集委員：青沼 和隆 (筑波大学)

編集委員：馬原 孝彦 (東京医科大学)

大澤 勲 (順天堂大学)

河野 了 (筑波大学)

北川 泰久 (東海大学八王子病院)

北山 丈二 (東京大学)

佐藤 麻子 (東京女子医科大学)

徳岡健太郎 (東海大学八王子病院)

中川 敬一 (東京シーサイドクリニック)

横山 登 (昭和大学豊洲病院)

印刷所：株式会社 文栄社

本誌広告申し込み先：日本成人病（生活習慣病）学会事務局

(株) 文栄社 までお問合せください。